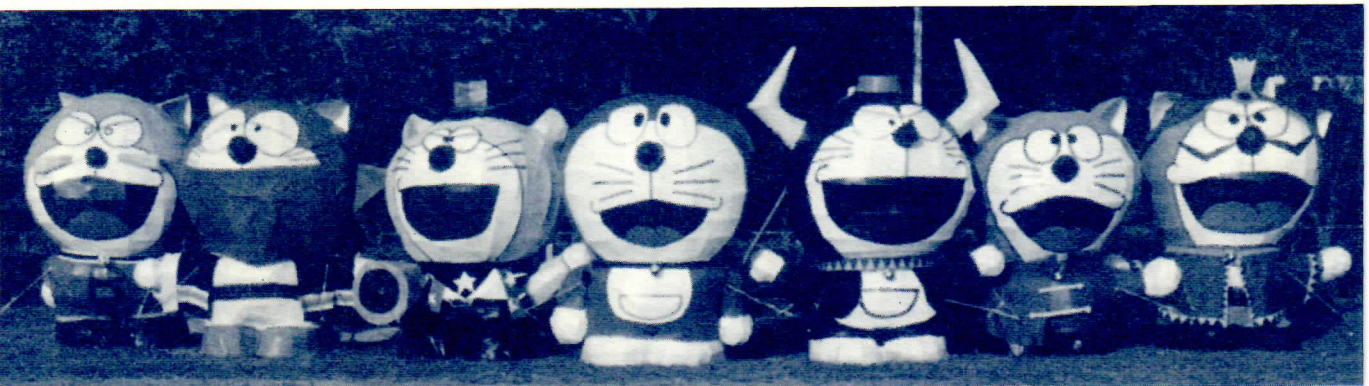




# おちほ

第28号 平成9年6月15日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

## 参上! ドラえもんズ



# 氏神祭

5月1日、氏神祭。今年度の落穂寮はちょっと違います。指導員と保母で、計七体のおみこしをつくったのです。その名も「ドラえもんズ」。七体はそれぞれ、得意なもの、国、表情、服装などが違います。でも、七体には、いいものをつくろうという職員の思いが込められていることと、地域の方々の声援を受けた、ということとは共通しています。今年は天候に恵まれ、暑いぐらいでしたが、暑さは天候のせいだけではないはず。それは、寮生・職員の熱気、そして地域の方のあたたかさが、暑さと楽しさを盛り上げたからだと思いのです。

ドラえもんズは、それぞれとも個性があります。その7人が力を合わせて敵と闘い平和を取り戻す、そしてみんな笑顔になる、という話があります。声援してください。さった地域の方を含め、ドラえもんズをつくった職員、おみこしをかっいだ寮生、みんなが力を合わせてこれからの課題に取りくんでいければと思います。そうすれば、ドラえもんズのように、みんなが笑顔で過ごせる日も、映画の話ではなく、現実のものとして続くのではないのでしょうか。

# ふくむ今昔

恨みにつく  
叱られて育つ

理事長 増田正司

僕の部屋に2面の写真額がかけられている。1枚は糸賀一雄先生であり、他は斉藤のおばアちゃんである。お二人はいつもにこやかに笑みをうかべて僕を見てくれる。そして僕は心なごやかになり、お二人に話しをしたくなる。お元氣なおり、たいへんお世話になった。懐かしい思い出の数々が遠くに消えていくなかで、あざやかに浮びあがって昔を回想することもある。

福祉を自分一生の仕事と考えるようになったのは、きびしい事上錬磨のつとめと糸賀先生からのつよい福祉のエネルギーを注入されたからだ。弱い立場の子

どもたちの幸せづくりに働くことが大人のつとめだ。戦后、子どもが職員に奮闘を期待した。食べること、着ること、住むこと、くらしのすべてが職員の肩にかかった。児童と職員の運命的な出会いをたいせつにした共同体のなかで、勤勉と研究と耐乏の生活がつづけられた。この中にとびこんで過した5年半が僕の将来をきめた。



▲ 糸賀一雄先生

当時、学園は瀬田川から水を汲みあげて、使っていた。川砂をかんでポンプが故障すると午前中は全員が瀬田川に水汲みにいく、水がとてもだいたいなものと誰もが考える日だ。昭和27年の頃、僕は庶務部勤務を命ぜられた。園内の補修もしこのうちだ。ある日、足洗い場のカラシから水漏れするのを通りかかった糸賀先生が目についた。「庶務係、すぐ園長室に」と声がかかった。水漏れの事情を知らぬ僕が部屋に入るや、「君は何の仕事をしてるか、月給泥棒か、すぐ水漏れをなおせ」。無責任なと浴びせられる怒声と罵声にちぢみあがり、かえす言葉もせず、口惜し涙があふれて引き下がってきた。



▲ 斉藤ちか先生

同じく庶務部勤務の小迫君と悪戦苦闘して、やっと水漏れを止めることができたが、何かいまましい思いが通りすぎていった。このにがい体験のくりかえしから、のちに下手な思案をくりかえすより、まずは行動を開始する習慣が身についた。その時のきびしい先生の顔は消えて、写真のお顔が笑っておられる。

# ふくむ今昔

# タンタロスの飲水

養長 山本 陽一

皆さんの支え

一九九七年三月はじめに国の補助金を受けられるよう協議をはじめました。なんとか成人施設を建築したいと思っていた寮生の保護者の皆さんの中には、長年の思いがやっとこまできたか、という感慨があつたのではないのでしょうか。実際に働き掛けて感じたことですが、私たちの存知上げないところでの多くの皆さんの働きかけが沢山ありました。それはこの建設問題でいろいろな人にお会いするとき、あちらこちらで感じたものです。こんな方々の働きかけがあり、やっと実現できたものではないかと思っております。本当に感謝申し上げます。

とりわけ国家の財政再建は日本政府のみならず、世界各国の課題であり歳入があらゆる手段で拡大され、歳出は国民生活全般にわたり削減されようとしています。そのなかにおいて福祉関係予算も例外ではありません。また、最近福祉の現場においても建設や運営の資金にまつわる不祥事が多発しました。施設の改築を迫られる者にとり悪条件は重なるばかりでした。そういう社会情勢のなかの施設建設ですから、十分に責任ある役割を果たしたいと思っております。

施設の今

落穂寮は一九五〇年から一貫して重度の知的障害のある子どもの生活施設でした。私たちの施設も最も多

い時期は一九七八年、全国で三五二カ所あったものが一九九六年では二九一カ所になりました。一八年間で六一施設が廃業したり組織変更を行なっており、児童施設数はもう少し減少するでしょう。これは今日まで減らしてきた児童施設の役割が大きく変わっていることの証です。また、現在地石部町に移転してきた当時は定員八〇人でしたが、今年から六〇人になりました。入所しているひとの平均年齢も二十三歳に達しています。現在の建物はブロック構造で、今日まで屋根など大規模な修繕を重ねて大切に使用してきました。しかし、老朽化もすすみ、先にあげた寮生の年齢構成も変化していることから、児童施設を廃業して成人施設(更生施設)に建て直そうと言う声が出始めてはば一〇年、やっと実現の運びになったわけですね。

建築予定

新施設の建築は現在の五十一人の寮生の生活を維持しながらの建て替えを行なわなければなりません。誰も経験したことのないことを始めることになりました。しかも現在の建物を解体してその上に新しく建築するといふものです。私達も最初は現在の運動場に新築したうで、古い建物を解体したところを運動場にしたいことが、山と林が間近に隣接している立地条件であるため、採光や通風、人や物の動線、建物の耐用年数

など、さまざまな要素を勘案する現在の建物の上に新築するのが最善だろうと判断しました。

新しい施設の建設工事は二年に渡りますので、その間の寮生たちの生活と活動の場所を確保しなければなりません。しかし、仮設の建物にかける余裕は十分にありません。従来の建物をなんとか有効に使って仮設の生活を考えようということ、体育館、旧教室、作業棟をそれぞれ生活棟、食堂、風呂場・洗濯場として仮設改造して使用する予定ですが、どの程度整備された建物になるか、限られた財源の問題も生じてきます。これらの問題は全て見通しを付けている問題ばかりではありませんが、建設にむけてなにか乗り越えようと思っております。

デイサービス事業の展開

定員五十人の更生施設は、男子三十人、女子二十人の定員を設定しています。ショートステイに五部屋整備し、寮生には二人一部屋の構造とされています。それに加え新しくデイサービス事業を始めます。

障害の程度や状態にかかわらず、自宅で生活することは本人も家族も願いは変わりません。すこしづつですが、社会全体の仕組みが次第に整備されてき、相談する機関や短期の入所施設が利用できることなどが次第に拡充されていますが、なかでも特に重度の障害を持った人たちの対応に、ご家族が多くの時間を割くことになっていく問題を考えなければなりません。このようなところから重度の障害のある人たちのデイサー

ビスの実施に取り組むことにいたしました。受入れ枠は八人の小規模型となります。この事業は全国で三十カ所あり、近年急速に整備がすすんでおり、現在甲西町で実施されています。落穂寮で行なう事業は五十人の生活施設でそのメリットを生かした実施を考えています。どんな障害があっても自分の力の出しそこねが起らないような力を落穂寮が身に付け、家族との生活が円滑になるような役割をはたしたいと思っております。

建物は現在の女子棟を転用して事業を開始しますが、将来のデイサービスは障害別の枠を解くことも考えなければならぬでしょう。五十人の生活が行なわれていることから、デイサービスの利用者のどの部分が問題となっているのかをつかみとることは、そう難しくないと思います。が、一番重要なことは、ご本人と同じような人たちの集団生活の体験により、家庭での生活が再調整されることにあります。特に障害の重い人たちには家庭の生活だけでは身に付きにくいものがあるのではないかと考えています。力を身に付けることはそれぞれに時期があるようで、それを逃すと、ご本人も周囲の者もたいへんな時間と労力を必要とします。このような状態ですと、持っている力の出しそこねにより、将来、家庭での生活がしにくくなるのではないかという心配があります。このことは現在感じられなかったり見えなかつたりしますが、十分考慮して、今の生活を考えなければならぬと思います。

## 成人施設移行にあたって

親の会長 堀 玲子

お願い申し上げます。

かましく切にお願い申し上げたく存じます。

建て物が新しくなり、落穂寮が今でも増増して、寮生さんにとって楽しい我が家である事と、全ての皆様への思いの場所である事を信念しております。

落穂寮の長年の念願でありました成人施設への移行が本格的になりました。今まで御支援下さった行政をはじめ、推の木の理事の皆様、落穂寮職員はもとより、御父兄の皆様、その他落穂寮に関わっていただいた全ての皆様へ力強い挨拶し、更には、歴代会長の地まぬ努力のお陰を心よりお礼申し上げます。

思い起こせば、現理事長の落穂先生が寮長であった十数年前、増田先生が寮長であった。あの木会としては杉山寮が出来、その上我県においては、昨年から今年にかけて新聞紙上をにぎわす諸事件が起き、せつかく、もう一つ、このまま来たのに、又、落穂の話は聞上げかと、半ばあきらめかけておりましたのに、落穂寮に関わっていただきました全ての皆様、特に影響

大なる資料の作成に当たっていた。先先生方の物・心両面での御力添えのお陰で今日を迎える事が出来ました事、改めてお礼申し上げます。

とは云え、これからの二年間の飯設生活を強いられる寮生さん。その生活を支えて下さる先生方には、大変な御苦労が待ちかまえています。人間目的があれば思わぬ力や、知恵が湧いてくるもので、お母さんの努力で切り抜けていただけのものも確信いたしております。

そのためは、特に御父兄の皆様には、例えば、飯設への移動、新築への移動の作業、又、帰省以外への帰省等々、多大な協力をお願いします。申し上げる事に成らないように、全員力を合せてこの新しい事業を成就させたいものと願っておりますので、その点充分御理解いただき、御協力の程よろしく

お願い申し上げます。

行政、理事の皆様、その他落穂寮に下さる御協力や、お母さま、お勤まりをいただき、特に、沢山の御お叱りをお受け、今までは以上、落穂寮を見守っていただき、厚



▲ 思い出のいっぱいあったみんなのおちほりようです。

# 成人施設化を考える

DREAMS COME TRUE.

DREAMS COME TRUE.

## 「先に見えるもの」のために

主任指導員 佐藤 三博

新しい施設のため、寮生さん共々、職員一丸となって努力していくつもりです。よろしくお願い致します。

ついに、落穂寮の児童転換に正式にGOサインが出されることになりました。本当に喜ばしいことです。これも、寮の現状を再検討し、考え方に賛同していただいた、多くの方々の協力のおかげだと思います。

まず、その方々に、寮生さん達に代わって、また、現場職員を代表して感謝したいと思います。

「ありがとうございます。」

お礼を言ったものでは、これですべてが終わったわけではありません。ここで、やっとスタートラインに立った。いえ、スタートラインに立つための準備運動をするのを許されたところ、今やどうもいいかもしれません。今年度途中からは、建設に向けての生活棟・食堂棟の取り壊しが始まり、飯設寮を生活基盤としての、不由自主な生活が始まります。新しい施設の為

とは云え、寮生さん達に飯設棟の生活は大変では無いだろうか。夏は暑くないか、冬は寒くないかと心配はつきません。しかし、寮生さん達と共分、今までは以上寮生さんの生活に対する配慮や柔軟対応の心掛けて、寮生さん達の日々の生活を守っていきたく思っています。

寮生さん達のさすすべを、職員が肩代りするくらいの気持ちで望むつもりです。その先には、新しい私達の施設が見えるのですから……。

新しい寮生さん達の施設は、どのような物になるのでしょうか。出来あがりた図面を眺めていると、色々な事を考えられます。落穂寮は、児童施設として50年近く歴史を刻んできました。その間に時代は流れ、その考え方も古くありません。しかし、いつまでも寮生さんの事を中心と考え、仕

事としての福祉

来たところで、寮生さん達と共に、泣いていくという職員意識だけを大切にしていきたいと思

も、なく、これと

今後は皆さんの御協力をお願いします。





# 96年度の絵まとの 学習発表会／作品展

去る3月9日、96年度の締めくくりとして学習発表会が行われました。今年も例年通り、寮の体育館を舞台として、各生活棟ごとに分かれての劇の発表があり、各棟共趣向を凝らした内容で楽しませてくれました。

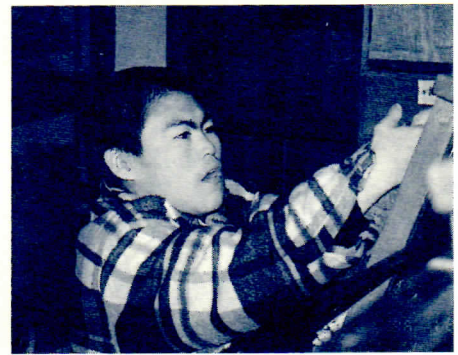
A棟は『A棟メイキングドラマ』と題し、皆で劇づくりをする過程を舞台化。意外な結果のストーリーで驚かせてくれました。B棟の『子供達の宝物』にはウルトラマンが登場。子供達の宝物をウルトラマンと一緒に取り返すというお話で、寮生さんの持ち味を十分に



▲ 迫真の演技 (B棟)

活かした作品に仕上がっていました。C棟はゴミ捨て場を舞台に、まだ十分使えるのに捨てられていく物達と、それを捨てる人や拾う人との関係を描き出し、『物の大切さ』を訴えました。

毎年の事なのですが、寮生さんと一緒に劇をするとなると頭を悩ますのは職員。「できるだけ寮生さんの個性を活かしたものに」等様々な声があります。しかし「練習で負担はかけたくない」ではどうするか。職員が考えて考えた末に書き上げてくる台本。そして貴重な自由時間を使って練習に取り組んでくれる寮生さん達。寮生さんの頑張り職員をサポート、各棟共1年間で培ったチームワークがあって、ようやく劇ができあがるのです。1年のまとめとして皆で一つのものに取り組み事にはないかと思えます。今年はずばらしいチームワークで成功に終わった学習発表会でした。



▲ 作品制作中 (竹班)

ば、寮生さんが一年かけてつくあげた作品を皆さんに見て頂く「作品展」。今年は2月12日〜18日の間、石部文化ホールで開きました。寮内でもいつも見慣れているはずの作品なのですが、展示されるとまた一段と立派に輝いて見えるから不思議です。展示された作品を寮生さんと見に行きました。自分の作品をじっくりと見つめる人もいれば、チラッと見るだけの人もいました。が、きっと何か誇らしさのようなものを感じていたのではないのでしょうか。今後もすばらしい作品を寮内だけにとどまらず、どんどん外に出して行ってあげたいと思います。また、寮生・職員共にもっと寮外へ出て地域との関わりを持つ必要があると感じています。——まずは作品展から。さて今回はいかがだったでしょうか。

## 泉

▽新年度に入り、はや一ヶ月が過ぎ、すっかり新緑の季節になりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。年度当初は何かと慌しかった寮内も、徐々に落ちつきを取り戻してきているようです。

▽成人施設化に向けて夢を語り、話し合いを続けてきた落穂寮ですが、今年度はいよいよ夢が現実となりそうな気配です。ようやく、といった感もあり、ホッとひと息つきたいところですが、大変なのはこれからです。大切なのは、仮設棟での生活になって不便になっても「生活の質を下げないこと」。職員一同気を引き締めて取り組んで参ります。皆様の御協力をよろしくお願い致します。

## 木言

ついこの間までは変わりなかつたようなのに、いつの間にか随分と大きくなっていく。緑をつけて花をつけて、しっかりと実をつけていたりする。そんな木々のように、ゆっくと、でも着実に、寮生さんは伸びています。私達もしっかりと根をはって、大きくなっていききたいものですね。